

法を破つて
猫撫で声で

Prologue

僕の耳を縦横無尽に走るコレが
被害を拡大させているのか
治癒しているのか分からない。
相手が男だろうが女だろうが
人外だろうが心を揺らしたら敗けでそれを
恋と呼ぶ
のだ。

世界はこのままありのままに
赦されるべきじゃないのか
夕陽に急かされる
早く死にたくなる
朝陽に曝される
早く負けたくなる

目醒めれば窓の外は曖昧な色具合、夕暮れ、朝焼け、どちらでも構わない。後にやってくるのが朝だろうと夜だろうと、どちらも私を癒やしはしないのだ。

冷たい雨

シャンデリア味

こめかみから偏頭痛

胃痛にのど飴

はい、左様なら

ああ消えたくない。

わたしの中に燃え続けるひとつの炎。

あなたは、いつか、きつと、死ぬ。

あたしはその日に流す音楽は決めてある。

仔細は訊かずに、眠らせて。

私達が馬鹿みたいに後生大事に抱え込んでいる闇を照らすの
音という光で。

針穴写真

流しに捨てたコーヒーが何かの形に似ていたけど

思い出せない 撤退する食欲

恋を患^{わづら}っているわけじゃないのに

Ah, God, I don't depend on you when I become a stray sheep.

あなたの存在が私の枷^{かせ}なの どうか呼吸を止めないで

悲しいことは溢れているわ

目が覚めたら埋葬^{まいざう}されていた

眠れない夜はまるで明けない

そんな気がして怖くて堪らない

Ah, God, I don't depend on you when I become a stray sheep.

あなたの存在も過ぎた時間も全部私のパラノイア
When you smile,the world changes a little kind.
Crazy for you,praying for you and I want to die.

もしもこの手紙を読んだら
外人墓地で逢いましょう

神話

愛情にも限りがある

なんて言つてごめんね

満たされては蒸発するリバノール

黄色の軟膏^{なんこう}

少しでも効いてくれれば幸いだよ

もしも もう一度結べたのなら

二人で神話を作ろう

君の尊さと僕の弱さで

アルミホイルみたいな海

目を細めて歩いた

寄せては返し発光するエタノール

緑の何様

少しだけ聴いてくれれば僥倖ざいこうだよ

もしも もう一度繋げたのなら

今度は素直になろう

只好きなのだという事を

もしも もう一度結べたのなら

二人で神話を作ろう

只好きなのだという事を嗚呼

私にだって伝えられるような

美しい世界を